

科目名			担当者	
国語表現			遠藤 花菜子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<p>授業や実習等、学校生活のあらゆる場面において、「文章を書く力」「話す力」は必須となる。また、自己を表現すること、そして、相手の話を理解することは、すべての教養の基礎となる。以上のことを踏まえ、本授業では文章の基礎力を高めることを目的とする。</p> <p>「読みやすい字、正しい漢字が書けること・自分の考えをしっかりと持つこと・わかりやすい文章で、自分の考えを伝えることができるようになること」を、到達目標とする。お礼状や履歴書などの書き方等にも慣れ、より良い社会人となるための基礎力を身に付ける。</p>
授業の概要 達成課題	<p>本科目では、実用的な文章を書くための基礎力を身に付けることができる。丁寧な字を書くことを意識し、漢字力・語彙力を高めるための反復練習・小テストを行う。小テストでは、定められた合格点に達することが求められる。また、目的に応じた的確な文章を書く力を身につけるために、実際に授業内で手紙文やハガキ、レポート等の作成を繰り返し、国語常識を理解できる。授業内に正確な文字で適切な文章を作成することが求められる。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 ガイダンス…ビジネスマナーの基本と就職活動につながる国語の授業</p> <p>第 2 週 敬語：丁寧語・謙譲語・尊敬語の違い…実践</p> <p>第 3 週 敬語：丁寧語・謙譲語・尊敬語の違い…実践</p> <p>第 4 週 敬語：小テスト+総復習</p> <p>第 5 週 漢字：ビジネス用語・一般教養</p> <p>第 6 週 小論文：プロセス 1. 概要～読解力の向上…要約分の作成</p> <p>第 7 週 小論文：プロセス 2. 概要～読解力の向上…感想文の作成</p> <p>第 8 週 小論文：プロセス 3. 概要～読解力の向上…論文の作成</p> <p>第 9 週 就活関連：プロセス 1. 概要～対策と傾向・スケジュールの確認～</p> <p>第 10 週 就活関連：プロセス 2. 自己分析の方法</p> <p>第 11 週 就活関連：プロセス 3. エントリーシートの書き方</p> <p>第 12 週 ビジネスメール・お礼状・報告書関連 (PC 版・手書き両方)</p> <p>第 13 週 エントリーシート・履歴書の書き方</p> <p>第 14 週 SPI 概要 対策と傾向</p> <p>第 15 週 ガイダンス(就活生としての国語のマナー) 2 年生への準備</p>	
成績評価方法	<p>授業への取り組み、及び、提出物による評価 (30%)</p> <p>小テストによる評価 (30%)</p> <p>定期試験による評価 (40%)</p>
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
身体表現			小田 幹雄	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	選択 1単位	無

授業の目的と到達目標	身体表現による基礎を学ぶことによって、コミュニケーションの知識や動きと関係や構成について学ぶ。個人や集団で表現する楽しさを体験し、ものづくりに役立つ表現力を高める。体を動かすことで、筋肉や関節の強さ、柔軟さ、持久力を高める。
授業の概要 達成課題	適切な筋力負荷、心拍数強度負荷により、体を強化する。 身体能力を高めることで、脳内を活性化し発想力を高める。 スポーツ運動の実施によって、インテリアコーディネーターとして必要な発想力を高める能力を身につける。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス 基礎体力テスト①
- 第2週 リラックスする体の動き①
- 第3週 リラックスする体の動き②
- 第4週 表現力のある体の動き①
- 第5週 表現力のある体の動き②
- 第6週 ウェイトトレーニング①
- 第7週 キャンパス周辺マラソン
- 第8週 基礎体力テスト②
- 第9週 日常の動作における表現方法①
- 第10週 日常の動作における表現方法②
- 第11週 集団における表現グループワーク①
- 第12週 集団における表現グループワーク②
- 第13週 プレゼンテーション
- 第14週 ウェイトトレーニング②
- 第15週 基礎体力テスト③

成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 実技試験による評価（70%）
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
数学基礎			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	各種資格試験に必用な基礎数学能力を身につける。具体的には、 ① 基礎数学の各種演算ができる ② 数学知識について理解できる ③ 計算速度を向上させ、計算の即応能力を伸ばし、2 年次の構造力学への理解度を高める。
授業の概要達成課題	資格取得試験で必要とする計算について解説し、その演習を繰り返し行なうことで基礎学習力を養うことができる。章の終了時には小テストによって演算速度の向上の効果を試す。計算演習を繰り返すことにより演算速度を速め確実な精度の向上を目指す。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 整数、分数、少数 (1) 第 2 週 整数、分数、少数 (2) 第 3 週 因数分解 第 4 週 分数式の計算 第 5 週 連立方程式 第 6 週 平方根 第 7 週 関数とグラフ 第 8 週 三角比 第 9 週 ラジアン単位 第 10 週 三角関数の基礎 第 11 週 指数 第 12 週 平方根 第 13 週 対数法則 第 14 週 微分積分の基礎 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価 (30%) 定期試験による評価 (70%)
教科書	
参考書	適時にプリントを配布
備考	小テストの実施を行なう。毎回の復習を行い授業に臨むこと。

科目名			担当者	
デッサン			遠澤 尚史	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	立体表現の基礎力が身につけることができる。集中力、表現力を養うことができる。立体の正確な把握と表現力を身に付けるため、鉛筆デッサンや人物クロッキーなどを通して、立体物の陰翳表現を習得し、プレゼンテーション能力を養う。			
授業の概要 達成課題	基本となる「立方体」から描くことができ「円柱」「円錐」「球」の基本形態をマスターした後、モチーフが2つ以上となる「静物デッサン」において、空間の距離感を把握する。また毎回の授業においてウォーミングアップとして、「人物クロッキー」を行う。			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週 ガイダンス 参考作品鑑賞、道具の説明、鉛筆によるグラデーションの制作 人物クロッキー				
第2週 課題1 立方体① (デッサンの描き方)				
第3週 立方体②				
第4週 立方体③ 提出 講評会				
第5週 課題2 円柱①				
第6週 円柱②				
第7週 円柱③ 提出 講評会				
第8週 課題3 円錐①				
第9週 円錐②				
第10週 円錐③ 提出 講評会				
第11週 課題4 球①				
第12週 球② 提出 講評会				
第13週 球③ 提出 講評会				
第14週 課題5 静物デッサン① (木材、バケツ、タオル)				
第15週 静物デッサン② (木材、バケツ、タオル) 提出 講評会				
*各授業にて毎回人物クロッキーを行います。				
成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)			
教科書	指定テキストはなし。			
参考書	授業にて適宜プリントを配布。			
備考	デッサンはすべての実技教科の基礎となるものです。立体的な表現方法を身につけることで、想像力が増します。また、道具など必要な準備物が多い教科なので、道具を大切に扱しましょう。			

科目名			担当者	
インテリアコーディネート実務			湯目 俊彦	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通期	演習	60時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーターとして将来仕事をする中で求められる「スキル」を具体的に学ぶ。インテリアコーディネーターが担当する「プレゼンテーションボード」作成の方法と、効果的なプレゼンテーションの仕方（発表）を身に付けることができる。 ※インテリアデザイナーとして実務経験のある教員が、課題演習を指導する。																																	
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・数多くの見学会で実際のインテリア業界を肌で感じ理解することができる。 ・インテリアコーディネーターの特性を理解することができる。 ・建築や流通業とのつながりを示し、仕事の成り立ちについて仕組みが理解できる。 ・自分のプランを「プレゼンテーションボード」にまとめ、効果的な説明が行える。 																																	
【各回のテーマ・内容・授業方法】	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>第1週 ガイダンス（ICの仕事・施工例の紹介）</td> <td>第16週 照明計画⑥（プレゼンテーション）</td> </tr> <tr> <td>第2週 ICの役割</td> <td>第17週 配線図①</td> </tr> <tr> <td>第3週 最近の住宅需要の変化について</td> <td>第18週 配線図②</td> </tr> <tr> <td>第4週 パナソニック・リビングショールーム見学</td> <td>第19週 大光電気ショールーム見学</td> </tr> <tr> <td>第5週 色彩計画①（壁紙・カーテン等の合わせ方）</td> <td>第20週 窓装飾概論</td> </tr> <tr> <td>第6週 色彩計画②</td> <td>第21週 スガツネ工業展示場見学</td> </tr> <tr> <td>第7週 色彩計画③</td> <td>第22週 窓装飾①</td> </tr> <tr> <td>第8週 サンゲツ商品発表会見学</td> <td>第23週 窓装飾②</td> </tr> <tr> <td>第9週 照明計画概論①（器具の種類と特徴）</td> <td>第24週 企業実習（宮城IC倶楽部イベント）</td> </tr> <tr> <td>第10週 照明計画概論②（取付方法と効果）</td> <td>第25週 窓装飾③（プレゼンテーション）</td> </tr> <tr> <td>第11週 照明計画①（対象物件の説明・手順）</td> <td>第26週 オリバー家具仙台ショールーム見学</td> </tr> <tr> <td>第12週 照明計画②</td> <td>第27週 家具計画概論（機能的学家具とデザイン）</td> </tr> <tr> <td>第13週 照明計画③</td> <td>第28週 家具計画①</td> </tr> <tr> <td>第14週 照明計画④</td> <td>第29週 家具計画②</td> </tr> <tr> <td>第15週 照明計画⑤</td> <td>第30週 総合住宅展示場見学</td> </tr> </tbody> </table>				第1週 ガイダンス（ICの仕事・施工例の紹介）	第16週 照明計画⑥（プレゼンテーション）	第2週 ICの役割	第17週 配線図①	第3週 最近の住宅需要の変化について	第18週 配線図②	第4週 パナソニック・リビングショールーム見学	第19週 大光電気ショールーム見学	第5週 色彩計画①（壁紙・カーテン等の合わせ方）	第20週 窓装飾概論	第6週 色彩計画②	第21週 スガツネ工業展示場見学	第7週 色彩計画③	第22週 窓装飾①	第8週 サンゲツ商品発表会見学	第23週 窓装飾②	第9週 照明計画概論①（器具の種類と特徴）	第24週 企業実習（宮城IC倶楽部イベント）	第10週 照明計画概論②（取付方法と効果）	第25週 窓装飾③（プレゼンテーション）	第11週 照明計画①（対象物件の説明・手順）	第26週 オリバー家具仙台ショールーム見学	第12週 照明計画②	第27週 家具計画概論（機能的学家具とデザイン）	第13週 照明計画③	第28週 家具計画①	第14週 照明計画④	第29週 家具計画②	第15週 照明計画⑤	第30週 総合住宅展示場見学
第1週 ガイダンス（ICの仕事・施工例の紹介）	第16週 照明計画⑥（プレゼンテーション）																																	
第2週 ICの役割	第17週 配線図①																																	
第3週 最近の住宅需要の変化について	第18週 配線図②																																	
第4週 パナソニック・リビングショールーム見学	第19週 大光電気ショールーム見学																																	
第5週 色彩計画①（壁紙・カーテン等の合わせ方）	第20週 窓装飾概論																																	
第6週 色彩計画②	第21週 スガツネ工業展示場見学																																	
第7週 色彩計画③	第22週 窓装飾①																																	
第8週 サンゲツ商品発表会見学	第23週 窓装飾②																																	
第9週 照明計画概論①（器具の種類と特徴）	第24週 企業実習（宮城IC倶楽部イベント）																																	
第10週 照明計画概論②（取付方法と効果）	第25週 窓装飾③（プレゼンテーション）																																	
第11週 照明計画①（対象物件の説明・手順）	第26週 オリバー家具仙台ショールーム見学																																	
第12週 照明計画②	第27週 家具計画概論（機能的学家具とデザイン）																																	
第13週 照明計画③	第28週 家具計画①																																	
第14週 照明計画④	第29週 家具計画②																																	
第15週 照明計画⑤	第30週 総合住宅展示場見学																																	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）																																	
教科書	『ICハンドブック』／インテリア産業協会																																	
参考書	授業の中で適宜指示します。プリントを配布することもあります。																																	
備考																																		

科目名			担当者	
カラーコーディネート			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	色彩の科学的・物理的な基礎知識を学び、演習を通して配色テクニックを習得する。また、色彩能力検定2、3級の合格を目指し、検定に対応できる知識を身につける。
授業の概要 達成課題	インテリア計画において理論的な配色計画を立てることができる。 色彩検定の受験勉強（3級）
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス 色彩と生活 第2週 色の三属性と色立体 第3週 マンセルの表色系 第4週 PCCS表色系 第5週 色名、光と色 第6週 色彩心理 第7週 色彩心理（演習） 第8週 色彩心理（演習） 第9週 色彩調和 第10週 色彩調和（演習） 第11週 色彩調和（演習） 第12週 色彩調和（演習） 第13週 ファッションと色彩 第14週 インテリアと色彩 第15週 環境と色彩	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ファッションコーディネート色彩能力検定対策参考書3級編（AFT）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
3次元CAD			増田 豊文	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	目的はインテリアの立案や顧客へのプレゼンテーションに用いられるCGによるパース表現技術を学ぶ。マイホームデザイナーとスケッチアップのソフトを使用し表現する。これらの基本操作を踏まえて、室内プランをCGに作り上げる技術を身に付ける。この演習を経て、学生のオリジナルの室内プランを視覚的に訴える表現力を身に付けることができる。
授業の概要 達成課題	授業では基本操作トレーニングを行い、CGソフトウェアの基本を理解し、その学んだことを踏まえて、課題となるインテリアプランのCGを制作する。課題では躯体が共通条件として与えられ、そこに各自がデザインしたオリジナルのプランを具体化していく。課題を通して、CGのモデリング、ライティング、質感表現の3つの行程とその方法を理解するが、特に室内表現で重要となるライティングを応用して魅力ある室内CGを作ることができる。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 マイホームデザイナー 基本操作
 第2週 質感表現
 第3週 照明の設定、特に面光源使い方を中心に設定方法を学ぶ
 第4週 ↓
 第5週 簡単な部屋データの制作
 第6週 ↓
 第7週 簡単な部屋データの制作
 第8週 ↓
 第9週 床材のテクスチャーマッピング、照明の設定
 第10週 ↓
 第11週 家具の配置
 第12週 視点と画角の設定
 第13週 レンダリング
 第14週 作品の修正
 第15週 ふりかえり まとめ

成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	なし
参考書	なし
備考	学校のコンピュータ実習室に備えられているCGソフトウェアを用いるので、自宅学習は求めない。授業では前回の振り返りを行いながら行うが、機能限定の同一ソフトウェアは格安で学生でも手軽に購入できるので、それを用いて課題に取り組むことも可能。また、コンピュータグラフィックの基本概念について身に付けることができるので、異種のソフトウェアでも応用できる。

科目名			担当者	
プレゼンテーション演習			佐々木 美穂	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	色彩計画の基本知識と演習を通して、実践的な色彩のテクニックを習得し、総合的なプレゼンテーションボードを制作することで、インテリアコーディネーターとしての表現の幅を広げる。 ※インテリアコーディネーターとして実務経験のある教員が、課題演習を指導する。
授業の概要 達成課題	演習課題を通して、理論的な配色計画ができるようになる。 イメージスケールを理解し、ニーズに応じた配色提案ができるようになる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 配色提案 1-1 (演習) 第2週 ↓ 第3週 配色提案 2-1 (演習) 第4週 ↓ 第5週 ↓ 第6週 イメージスケール (講義) 第7週 イメージスケール (演習) 第8週 インテリアと色彩 (講義) 第9週 イメージスケールを元にしたイメージ表現 (演習) 第10週 ↓ 第11週 インテリアのカラーコーディネート計画 (演習) 第12週 ↓ 第13週 ↓ 第14週 ↓ 第15週 講評会 (プレゼンテーション)	
成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)
教科書	ファッションコーディネート色彩能力検定対策参考書3級編
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター概論			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講 義	60時間	必修 4単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアコーディネーターの業務の内容を理解し、説明できる。 ・インテリアコーディネーター業務の遂行に必要な基本的な法規の内容を理解し、計画に生かすことができる。 ・インテリアコーディネーター資格試験の内容を理解し、過去問題に正しく解答できる。 																																	
授業の概要 達成課題	<p>まず、インテリアコーディネーターの業務内容を説明し、クライアントから要求される役割について説明する。次に、業務の遂行に必要な関連法規について説明し、実際の計画との関連を実例をもとに説明する。後半部では、インテリアエレメントの商品知識について、実際のカatalogや実物見本等を使い理解させる。インテリアコーディネーター資格試験の新しい傾向等の分野を中心に十分な総括を行い、受験の準備をさせる。</p>																																	
【各回のテーマ・内容・授業方法】	<table border="0"> <tbody> <tr> <td>第1週 インテリアコーディネーターの業務</td> <td>第16週 ファブリクス1</td> </tr> <tr> <td>第2週 ボードの仕上げとプレゼン/DVDの実例</td> <td>第17週 ファブリクス2</td> </tr> <tr> <td>第3週 比率を縮尺</td> <td>第18週 家具1 (アーゴノミー系家具)</td> </tr> <tr> <td>第4週 「住宅と社会」 / 「関連法規」1</td> <td>第19週 家具2 (セミアーゴノミー系家具)</td> </tr> <tr> <td>第5週 「住宅と社会」 / 「関連法規」2</td> <td>第20週 家具3 (その他)</td> </tr> <tr> <td>第6週 「住宅と社会」 / 「関連法規」3 / 単元テスト</td> <td>第21週 建具1 (和もの)</td> </tr> <tr> <td>第7週 「建築材料と構成材料」1</td> <td>第22週 建具2 (洋もの)</td> </tr> <tr> <td>第8週 「建築材料と構成材料」2</td> <td>第23週 照明1 (機器の種類)</td> </tr> <tr> <td>第9週 「建築材料と構成材料」3</td> <td>第24週 照明2 (点燈形式)</td> </tr> <tr> <td>第10週 「建築材料と構成材料」4 / 単元テスト</td> <td>第25週 住宅設備</td> </tr> <tr> <td>第11週 IC試験過去問題1 演習/解説</td> <td>第26週 小物 (装飾品・美術品)</td> </tr> <tr> <td>第12週 IC試験過去問題2 演習/解説</td> <td>第27週 寝具</td> </tr> <tr> <td>第13週 IC試験過去問題3 演習/解説</td> <td>第28週 インテリアグリーン</td> </tr> <tr> <td>第14週 仕上げ材について1</td> <td>第29週 IC試験過去問題4 演習/解説</td> </tr> <tr> <td>第15週 仕上げ材について2</td> <td>第30週 IC試験過去問題5 演習/解説</td> </tr> </tbody> </table>				第1週 インテリアコーディネーターの業務	第16週 ファブリクス1	第2週 ボードの仕上げとプレゼン/DVDの実例	第17週 ファブリクス2	第3週 比率を縮尺	第18週 家具1 (アーゴノミー系家具)	第4週 「住宅と社会」 / 「関連法規」1	第19週 家具2 (セミアーゴノミー系家具)	第5週 「住宅と社会」 / 「関連法規」2	第20週 家具3 (その他)	第6週 「住宅と社会」 / 「関連法規」3 / 単元テスト	第21週 建具1 (和もの)	第7週 「建築材料と構成材料」1	第22週 建具2 (洋もの)	第8週 「建築材料と構成材料」2	第23週 照明1 (機器の種類)	第9週 「建築材料と構成材料」3	第24週 照明2 (点燈形式)	第10週 「建築材料と構成材料」4 / 単元テスト	第25週 住宅設備	第11週 IC試験過去問題1 演習/解説	第26週 小物 (装飾品・美術品)	第12週 IC試験過去問題2 演習/解説	第27週 寝具	第13週 IC試験過去問題3 演習/解説	第28週 インテリアグリーン	第14週 仕上げ材について1	第29週 IC試験過去問題4 演習/解説	第15週 仕上げ材について2	第30週 IC試験過去問題5 演習/解説
第1週 インテリアコーディネーターの業務	第16週 ファブリクス1																																	
第2週 ボードの仕上げとプレゼン/DVDの実例	第17週 ファブリクス2																																	
第3週 比率を縮尺	第18週 家具1 (アーゴノミー系家具)																																	
第4週 「住宅と社会」 / 「関連法規」1	第19週 家具2 (セミアーゴノミー系家具)																																	
第5週 「住宅と社会」 / 「関連法規」2	第20週 家具3 (その他)																																	
第6週 「住宅と社会」 / 「関連法規」3 / 単元テスト	第21週 建具1 (和もの)																																	
第7週 「建築材料と構成材料」1	第22週 建具2 (洋もの)																																	
第8週 「建築材料と構成材料」2	第23週 照明1 (機器の種類)																																	
第9週 「建築材料と構成材料」3	第24週 照明2 (点燈形式)																																	
第10週 「建築材料と構成材料」4 / 単元テスト	第25週 住宅設備																																	
第11週 IC試験過去問題1 演習/解説	第26週 小物 (装飾品・美術品)																																	
第12週 IC試験過去問題2 演習/解説	第27週 寝具																																	
第13週 IC試験過去問題3 演習/解説	第28週 インテリアグリーン																																	
第14週 仕上げ材について1	第29週 IC試験過去問題4 演習/解説																																	
第15週 仕上げ材について2	第30週 IC試験過去問題5 演習/解説																																	
成績評価方法	<p>小テスト及びレポート等による評価 (30%) 定期試験による評価 (70%)</p>																																	
教科書	『ICハンドブック』/インテリア産業協会																																	
参考書	授業の中で適宜指示します。プリントを配布することもあります。																																	
備考	インテリアコーディネーター資格試験の合格基準にあわせて、効果的な学習を心がけることメーカーの提供するカatalogや実物見本を用いての授業形式を基本とする。																																	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター演習			佐々木 美穂	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター業務の中でのプレゼンテーションの重要性を理解し説明できる。 プレゼンテーションボードの作成について基本的なスキルを習得し、使いこなすことができる。 設定したクライアントについてイメージスケールを使って、イメージを特定できる。 イメージを実際の建築計画に生かし、実現可能な空間の計画ができる。 ※インテリアコーディネーターとして実務経験のある教員が、課題演習を指導する。
授業の概要 達成課題	まず、インテリアコーディネーター業務の中でのプレゼンテーションに役割について説明し 良いプレゼンの基本的な条件について説明する。次に、自分が設定したクライアントの個性を 引き出し、イメージを特定していく方法としてのイメージスケールを理解し、使いこなせるよ うに指導を行う。マンションのリフォームの課題を通して、イメージを実際の建築計画に生かす 演習をさせ、プレゼンテーションボードを使った発表会を行う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 インテリアコーディネーターとは何か</p> <p>第2週 プレゼンテーションボード作成の基本1（レイアウト／エレメントの扱い）</p> <p>第3週 プレゼンテーションボード作成の基本2（イメージと構成手法）</p> <p>第4週 イメージボードの作成1（クライアント設定／イメージスケール）</p> <p>第5週 イメージボードの作成2（演習）</p> <p>第6週 イメージボードの作成3（提出）</p> <p>第7週 マンションリフォームの計画1（課題説明・クライアントの設定）</p> <p>第8週 マンションリフォームの計画2（平面計画）</p> <p>第9週 マンションリフォームの計画3（内装計画）</p> <p>第10週 マンションリフォームの計画4（平面図製図）</p> <p>第11週 マンションリフォームの計画5（展開図製図）</p> <p>第12週 マンションリフォームの計画6（スケッチパース起し）</p> <p>第13週 マンションリフォームの計画7（スケッチパース着彩）</p> <p>第14週 マンションリフォームの計画8（コンセプト・レイアウト）</p> <p>第15週 マンションリフォームの計画9（提出／発表会）</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・演習実技（イメージボード演習課題）による評価（40%） ・作品成果物（マンションリフォームの計画演習課題）による評価（60%）
教科書	
参考書	授業の中で適宜指示します。プリントを配布することもあります。
備考	マンションリフォームの計画演習課題については、プレゼンテーションによる発表会を実施し、総合的に評価を行う。

科目名			担当者	
家具デザイン I			早坂 直人	常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・後期	演習	30 時間	必修 1 単位	無

授業の目的と到達目標	1 / 5 模型の制作を通して、家具の構造と素材の性質、加工方法について学ぶ。 実物家具を製作する上での基礎技術を身につける。
授業の概要 達成課題	家具の基本構造と、家具の種類を理解する。 材料（木材）の基本的な知識を身につける。 木材を加工するための機材の使用方法を学び、安全に加工できる力を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス 第 2 週 家具の基本構造と種類 第 3 週 材料について 第 4 週 木材の加工演習、機材演習 第 5 週 1 / 5 椅子模型 1 コンセプト、アイディアデッサン 第 6 週 1 / 5 椅子模型 2 図面 第 7 週 1 / 5 椅子模型 3 ↓ 第 8 週 1 / 5 椅子模型 4 材料加工 第 9 週 1 / 5 椅子模型 5 ↓ 第 10 週 1 / 5 椅子模型 6 ↓ 第 11 週 1 / 5 椅子模型 7 組み立て 第 12 週 1 / 5 椅子模型 8 ↓ 第 13 週 1 / 5 椅子模型 9 座面張り 第 14 週 1 / 5 椅子模型 10 塗装 第 15 週 1 / 5 椅子模型 11 プレゼンテーション	
成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	ICハンドブック 技術編（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
家具デザインⅡ			湯目 俊彦	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	主に住まいの空間を対象として、インテリアの必要知識を習得した上で、平面図や展開図、透視図を正確かつ手早く描くことのできる技能を身に付ける。 ※インテリアデザイナーとして実務経験のある教員が、課題演習を指導する。
授業の概要 達成課題	平面図や展開図、透視図を正確かつ手早く描くことができる。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 人体寸法と動作寸法・単位空間
- 第2週 家具寸法・インテリアスタイル
- 第3週 リビングルーム・ダイニングルーム
- 第4週 キッチン・LDK・ベッドルーム
- 第5週 キッズルーム・サニタリー
- 第6週 床の構法・壁の構法・天井の構法
- 第7週 開口部のデザイン
- 第8週 平面詳細図①
- 第9週 平面詳細図②
- 第10週 展開図①
- 第11週 展開図②
- 第12週 展開図③
- 第13週 収納家具図①
- 第14週 収納家具図②
- 第15週 収納家具図③

成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
空間デザイン I			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	基礎的な造形過程の演出を通して立体表現方法を把握し、空間における構成力の基礎を学ぶ。それらを基にそれぞれの演出論を学び、空間演出の知識と技術を習得し、立体構成の基礎を学ぶ。
授業の概要 達成課題	空間認識構成力を身に付け、インテリアコーディネーターとして資質を向上させる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ビルダーカードによる空間構成① 第 2 週 ビルダーカードによる空間構成② 第 3 週 握りやすいかたち① 第 4 週 握りやすいかたち② 第 5 週 風を感じる立体デザイン① 第 6 週 風を感じる立体デザイン② 第 7 週 風を感じる立体デザイン③ 第 8 週 風を感じる立体デザイン④ 第 9 週 飛ぶかたち① 第 10 週 飛ぶかたち② 第 11 週 線（棒）による立体構成① 第 12 週 線（棒）による立体構成② 第 13 週 糸をつかった立体構成① 第 14 週 糸をつかった立体構成② 第 15 週 糸をつかった立体構成③	
成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
空間デザインⅡ			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	基礎的な造形過程の演出を通して立体表現方法を把握し、空間における構成力の基礎を学ぶ。それらを基にそれぞれの演出論を学び、空間演出の知識と技術を習得し、立体構成の基礎を学ぶ。
授業の概要 達成課題	人と物との関わりを空間的にとらえ、社会的空間表現の応用力を身につける。 新しい造形力を考案する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 調和のある空間構成① 第 2 週 調和のある空間構成② 第 3 週 調和のある空間構成③ 第 4 週 照明制作① 第 5 週 照明制作② 第 6 週 照明制作④ 第 7 週 照明制作⑤ 第 8 週 照明制作⑥ 第 9 週 コンペ作品制作①即日トレーニング 第 10 週 コンペ作品制作②アイデアスケッチ 第 11 週 コンペ作品制作③制作 1 第 12 週 コンペ作品制作④制作 2 第 13 週 コンペ作品制作⑤制作 3 写真撮影 第 14 週 コンペ作品制作⑥プレゼンボード制作 第 15 週 コンペ作品制作⑦プレゼンテーション 提出	
成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)
教科書	ICハンドブック 技術編 (インテリア産業協会)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアデザイン I			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	表現における基本的な構成及び、デザイン用具の使用方法を学ぶ。様々な材料や用具に触れることで、その造形的可能性を理解すると共に、視覚的、造形的感性の向上を目指す。
授業の概要 達成課題	デザイン構成力を高めることで、インテリアコーディネーターとして必要な資質を身に付ける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス 第2週 デザインガッシュの効果実験 第3週 面による構成①線による形 第4週 ↓ 第5週 面による構成②文字の面的処理 第6週 ↓ 第7週 面による構成③充填と分割・比例 第8週 ↓ 第9週 面による構成④シンメトリー 第10週 ↓ 第11週 面による構成⑤リズム 第12週 ↓ 第13週 サイン・ロゴマークの作成① 第14週 サイン・ロゴマークの作成② 第15週 サイン・ロゴマークの作成③	
成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)
教科書	ICハンドブック 技術編 (インテリア産業協会)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアデザインⅡ			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	無

授業の目的と到達目標	表現における基本的な構成及び、デザイン用具の使用方法を学ぶ。様々な材料や用具に触れることで、その造形的可能性を理解すると共に、視覚的、造形的感性の向上を目指す。
授業の概要 達成課題	デザイン構成力を高めることで、インテリアコーディネーターとして必要な資質を身に付ける。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

第1週 面による構成プロポーション
 第2週 ↓
 第3週 平面構成①
 第4週 ↓
 第5週 平面構成②
 第6週 ↓
 第7週 平面構成③
 第8週 ↓
 第9週 実践課題①平面構成
 第10週 ↓
 第11週 ↓
 第12週 実践課題②平面構成
 第13週 ↓
 第14週 ↓
 第15週 ↓

成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	ICハンドブック 技術編（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター総合資格講座 I			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター資格試験対策の内容を網羅し、一次試験に対応できる知識を身につける。インテリア空間をまとめる具体的な業務内容の理解、様々な計画に必要な基礎知識、構造・構法と仕上げに関する知識、技術について理解を深める。
授業の概要達成課題	テキストの理解や過去問題を解くことで、インテリアコーディネーター資格試験の内容である、ファブリック、家具、仕上材、建具、証明、住宅設備などの知識を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス インテリアの意識の芽生えとインテリア空間 第2週 インテリア産業の発展とインテリアコーディネーターの誕生 第3週 インテリアコーディネーターの職務 第4週 インテリアコーディネーターの実務 第5週 インテリアコーディネーターの職域 第6週 日本のインテリアの歴史 第7週 西洋のインテリアの歴史 第8週 インテリアコーディネーションのための検討事項 第9週 生活場面の構成手法 第10週 リフォームの計画 第11週 インテリアエレメント 第12週 住宅用家具 第13週 造形部品 第14週 ウィンドーエレメント 第15週 カーペット	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター総合資格講座Ⅱ			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター資格試験対策の内容を網羅し、一次試験に対応できる知識を身につける。インテリア空間をまとめる具体的な業務内容の理解、様々な計画に必要な基礎知識、構造・構法と仕上げに関する知識、技術について理解を深める。
授業の概要達成課題	テキストの理解や過去問題を解くことで、インテリアコーディネーター資格試験の内容である、ファブリック、家具、仕上材、建具、証明、住宅設備などの知識を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 建築の構造・構法 第2週 インテリアの構法 第3週 造作と造作材 第4週 機能材料と構法 第5週 建具 第6週 仕上げ材と仕上げ 第7週 インテリアのリフォーム 第8週 環境工学 第9週 住宅設備 第10週 インテリアコーディネーターと設計図書の関わり 第11週 インテリアコーディネーションの表現 第12週 インテリアコーディネーションとCAD 第13週 主な関連法規 第14週 インテリア関連の制度と表示マーク 第15週 まとめ	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
販売士資格講座			山下 健二	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	講義	60時間	必修 4単位	有

授業の目的と到達目標	<p>販売士3級の基礎知識として、接客の基本のスキルを理解し、販売業に求められる資質について理解させる。次に、店舗の実際の経営を例に取りながら小売業の類型について理解させる。さらに、それぞれの小売の形態において、どのような販売形態が行われているのか、それらに必要なスキルにはどのようなものがあるかを理解させ、マーケティングの基礎知識を補う。後半部分では、販売経営管理全般について説明し、売り上げの向上につながる戦略について理解させる。</p> <p>※一級販売士として実務経験のある教員が課題演習を指導する。</p>			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・接客に関する基礎知識を理解し説明できる。 ・商品に関する基礎知識を理解し、説明できる。 ・小売に関する経済知識、流通機構を理解し、説明できる。 ・小売業に関する法律等について理解し、説明できる。 ・マーケティングの全容を理解し、3級販売士に合格できる。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	ガイダンス	第16週	ストアオペレーション3	
第2週	小売業の類型1	第17週	ストアオペレーション4	
第3週	小売業の類型2	第18週	マーケティング1	
第4週	小売業の類型3	第19週	マーケティング2	
第5週	小売業の類型4	第20週	マーケティング3	
第6週	小売業の類型5	第21週	マーケティング4	
第7週	小売業の類型6	第22週	販売経営管理1	
第8週	小売業の類型7	第23週	販売経営管理2	
第9週	小売業の類型8	第24週	販売経営管理3	
第10週	マーチャダイジング1	第25週	販売経営管理4	
第11週	マーチャダイジング2	第26週	販売経営管理5	
第12週	マーチャダイジング3	第27週	販売経営管理6	
第13週	マーチャダイジング4	第28週	予備試験対策補講	
第14週	ストアオペレーション1	第29週	予備試験	
第15週	ストアオペレーション2	第30週	解説とまとめ	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・予備試験による評価（50%） ・定期試験による評価（50%） 			
教科書	『販売士検定試験ハンドブック3級編』（株）キャリアック			
参考書	授業の中で適宜指示します。補足用プリントを配布することもあります。			
備考	本校は、販売士3級試験の5科目のうち1科目免除が認定されているが、そのためには「予備試験」合格が必須である。なお、予備試験不合格であっても、販売士3級試験の受験は可能。			

科目名			担当者	
図学 I			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	演習	4 5 時間	必修 1. 5 単位	無

授業の目的と到達目標	基礎課程として、空間構成や立体構成の感覚を身に付けるために遠近法基礎と表現技法の基礎を学ぶ。1点透視図法、2点透視図法、アイソメトリック、アクソメトリックといった表現技術を身につける。
授業の概要 達成課題	透視図法を使用して、室内、外観パースを描ける表現力を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 基本事項①拡大法と縮小法 第 2 週 基本事項②1～3 点透視図法 第 3 週 基本事項③陰影図法 自然光と人工光 第 4 週 室内パース 1 点透視法/縮小法 第 5 週 室内パース 1 点透視法/拡大法 第 6 週 室内パース 2 点透視法/縮小法 第 7 週 室内パース 2 点透視法/拡大法 第 8 週 室内パース 3 点透視法 (簡略図法) /縮小法 第 9 週 室内パース 3 点透視法 (簡略図法) /拡大法 第 10 週 アイソメトリック図法 第 11 週 外観パース 1 点透視法 第 12 週 外観パース 2 点透視法 第 13 週 外観パース 3 点透視法 (2 点透視法修正簡略図) 第 14 週 アクソメトリック図法 第 15 週 まとめ	
成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)
教科書	建築パース演習教本
参考書	課題ごとにプリントを配布。
備考	遠近法を基本として、考え方と描き方を学びます。

科目名			担当者	
図学Ⅱ			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 遠近法を使い、パースを描くことができる。 図面からパースを描くことができる。 プレゼンテーション力を養うことができる。 建築・インテリアの基礎課程として、空間構成や立体構成の感覚を身に付けるために遠近法基礎と表現技法の基礎を学ぶ。
授業の概要 達成課題	遠近法の実践力を学ぶ。図学Ⅱでは、具体例を描くことでテクニックを上達させる。着彩表現にも工夫を加え、描くことが楽しくなるような能力を養う。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ソファ・センターテーブル
- 第2週 ローテーブル
- 第3週 畳部屋
- 第4週 寝室
- 第5週 橋
- 第6週 トンネル
- 第7週 並木道
- 第8週 ダイニングセット
- 第9週 リビングルーム
- 第10週 カウンターキッチン
- 第11週 カフェ
- 第12週 カフェ店内
- 第13週 カフェテラス
- 第14週 カクテルとグラス
- 第15週 海辺の町

成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	
参考書	課題ごとにプリントを配布。
備考	図学Ⅰを基本とすることで表現力が飛躍的に上達し、描くことが楽しくなります。

科目名			担当者	
表現技術演習			長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	<p>立体物を表現するため2次元表現（スケッチや図面）を基に、手法と技術を学ぶ。また、卒業制作に欠かせないプレゼンテーションの技法のひとつとして、家具、インテリアの製作技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図面から立体を想像して具現化できる
授業の概要達成課題	<p>家具図面を元に展開図から材料を加工し、組立工程を習得する。インテリア空間の計画をプランニングから色彩、家具、テクスチャーの表現まで模型を通して習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図面の読図力が身につく。 ・室内空間を計画し、プレゼンテーション方法を習得できる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 家具模型課題（オープンボックス）</p> <p>第2週 家具模型課題（デスクユニット）</p> <p>第3週 家具模型課題（ダイニングボード）</p> <p>第4週 課題（ワンルーム空間の計画）①</p> <p>第5週 課題（ワンルーム空間の計画）②</p> <p>第6週 課題（ワンルーム空間の計画）③</p> <p>第7週 課題（ワンルーム空間の計画）④</p> <p>第8週 課題（ワンルーム空間の計画）⑤</p> <p>第9週 課題（ワンルーム空間の計画）⑥</p> <p>第10週 課題（ワンルーム空間の計画）⑦</p> <p>第11週 課題（ワンルーム空間の計画）⑧</p> <p>第12週 課題（ワンルーム空間の計画）⑨</p> <p>第13週 課題（ワンルーム空間の計画）⑩</p> <p>第14週 課題（ワンルーム空間の計画）⑪</p> <p>第15週 課題（ワンルーム空間の計画）⑫</p>	
成績評価方法	<p>演習による実技評価（30%）</p> <p>作品による成果物による評価（70%）</p>
教科書	
参考書	授業の中で適宜プリントを配布します。
備考	

科目名			担当者	
施工演習 I			及川 仁	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	内装工事の種類について理解し、説明できる。内装施工について、現場の要請に耐えうる技術を実践できる。 ※施工管理現場技術者として20年以上の実務経験を持つ担当教員が、課題演習授業を指導する。
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各種内装仕上げ材の材料特性、施工方法、見積、採寸など、実習を交えて指導する。 ・内装工事を取りまくインテリア業界の現状をより具体的に伝えることを目標とする。 ・設計、コーディネーター、現場管理、営業などの各職種に適応した授業を行う。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス
 第2週 ビスについて：下地によるビスの活用法および実技指導
 第3週 壁面施工1 壁仕上げの分類と特性、施工上の留意点
 第4週 壁面施工2 壁仕上げの種類と品質、接着剤の種類と取扱い
 第5週 壁面施工3 壁下地の調整について
 第6週 壁面施工4 仕上げ材の割付計画
 第7週 壁面施工5 壁仕上げ材採寸演習1（無地・突きつけ）
 第8週 壁面施工6 壁仕上げ材採寸演習2（リピート計算）
 第9週 壁面施工7 壁仕上げ材採寸演習3（特殊施工）
 第10週 壁面施工8 実習
 第11週 床面施工1 床仕上げ材の種類と特徴、見積採寸実習
 第12週 床面施工2 樹脂性接着剤の特徴
 第13週 床面施工3 樹脂性接着剤の施工方法
 第14週 床面施工4 床面積の計算と材料の見積、採寸演習
 第15週 床面施工5 実習

成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 演習による実技評価（30%） 定期試験による評価（40%）
教科書	・構造用教材（日本建築学会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
施工演習Ⅱ			及川 仁	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	演習	30時間	必修 1単位	有

授業の目的と到達目標	内装工事の種類について理解し、説明できる。内装施工について、現場の要請に耐えうる技術を実践できる。 ※施工管理現場技術者として20年以上の実務経験を持つ担当教員が、課題演習授業を指導する。
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 各種内装仕上げ材の材料特性、施工方法、見積、採寸など、実習を交えて指導する。 内装工事を取りまくインテリア業界の現状をより具体的に伝えることを目標とする。 設計、コーディネーター、現場管理、営業などの各職種に適応した授業を行う。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 襖・障子1 : 本体種類、材料種類、施工方法
 第2週 襖・障子2 : 施工実習
 第3週 襖・障子3 : 施工実習
 第4週 その他壁装材
 第5週 プラスチック床材1 : 種類、見積採寸実習
 第6週 プラスチック床材2 : 種類、接着材、施工方法
 第7週 プラスチック床材3 : 種類、接着材、施工方法
 第8週 プラスチック床材4 : 見積、採寸演習
 第9週 プラスチック床材5 : 施工実習
 第10週 カーペット1 : 種類、接着材、施工方法
 第11週 カーペット2 : 見積、採寸演習
 第12週 カーペット3 : 見積、採寸演習
 第13週 カーペット4 : 施工実習
 第14週 その他の床材 : コルクタイル、フローリング、畳など
 第15週 ビデオ : カーペット、その他床材の施工

成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価 (30%) 演習による実技評価 (30%) 定期試験による評価 (40%)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ICハンドブック 技術編 (インテリア産業協会) 構造用教材 (日本建築学会)
参考書	
備考	毎回出席を取る。出席率は2/3以上必要。

科目名			担当者	
福祉住環境講座			今野 恵子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	高齢社会という社会背景を踏まえ、住環境整備に対する知識を理解し、用具実習や施設見学を通して、実社会の福祉現場を学ぶことで実例を説明できる。将来の高齢化社会に対応できるインテリアコーディネーターの知識を身につける。また、福祉住環境コーディネーター3級試験合格を目標とする。
授業の概要 達成課題	少子高齢化社会の現状と課題や日本の住環境の問題点を理解する。その上で高齢者の自立した生活を支える介護保険制度や福祉用具の知識を学んだ上で、安全・快適な住まいとは何かを考える。その後、福祉用具実習や介護体験、施設見学を通して、現在の問題点を探る。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 第1章 暮らしやすい生活環境をめざして（少子高齢社会と共生社会への道）</p> <p>第2週 第1章 暮らしやすい生活環境をめざして（福祉住環境整備の重要性・必要性 在宅生活の維持とケアサービス）</p> <p>第3週 第2章 健康と自立をめざして（健康と自立）</p> <p>第4週 第2章 健康と自立をめざして（障害者が生活の不自由を克服する道）</p> <p>第5週 第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン</p> <p>第6週 第4章 安全・快適な住まい（安全・快適な住まいの整備①）</p> <p>第7週 第4章 安全・快適な住まい（安全・快適な住まいの整備②）</p> <p>第8週 第5章 安心できる住生活とまちづくり（ライフスタイルの多様化と住まい、安心できる住生活支援）</p> <p>第9週 第5章 安心できる住生活とまちづくり（安心して暮らせるまちづくり）</p> <p>第10週 福祉用具実習①（車椅子体験、校内にて段差の体験、体育館脇設置の階段昇降機体験）*小レポート</p> <p>第11週 福祉用具体験②（各種リフト、電動車いす、ベッド等の体験と福祉車両体験）*小レポート</p> <p>第12週 介護実習体験（手話、入浴用具、体位変換体験）*小レポート</p> <p>第13週 福祉用具体験③（視覚障害体験 白杖、点字の体験）*小レポート</p> <p>第14週 高齢者体験（高齢者体験セット、今後の課題説明）*小レポート</p> <p>第15週 校外学習 介護老人保健施設見学*小レポート</p>	
成績評価方法	<p>期末試験にて評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>小テスト及びレポート等による評価（30%）</p> <p>定期試験による評価（70%）</p>
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 東京商工会議所
参考書	授業ごとにプリントを配布。
備考	現在の高齢化社会にはさまざまな問題が山積みです。この講座を通して、自分たちがインテリアコーディネーターという職業から、これからの社会をどう向き合っていくかを学びます。

科目名			担当者	
店舗計画			中村 通	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	店舗の設計についての理論を理解し、建築的にも営業的にも、顧客に満足を与える店舗が計画できる。最終目標として、設計製図（企業向け）の課題をこなせる段階までの技術を身に付ける。 ※二級建築士・商業施設デザイナーとして実務経験のある担当教員が、課題演習を指導する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プロになるための実力トレーニングを行う。 ・毎週、実践技術を身に付けるためのスピードトレーニングを行う。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス トレーニング実力テスト[即戦力]
 第2週 経営戦略 コンセプトトレーニング
 第3週 シナリオ 商品展開トレーニング
 第4週 ディスプレイ 店舗レイアウトトレーニング
 第5週 トレーニング実力テスト[経営戦略・コンセプト・演出・基本プラン]
 第6週 経営と造形トレーニング・a
 第7週 経営と造形トレーニング・b
 第8週 経営と色彩・照明[造形・素材] トレーニング・a
 第9週 経営と色彩・照明[造形・素材] トレーニング・b
 第10週 トレーニング実力テスト[経営・コンセプト・演出・造形・色彩・照明・基本プラン]
 第11週 平面計画トレーニング・a[物販店詳細寸法]
 第12週 平面計画トレーニング・b[飲食店詳細寸法]
 第13週 総合トレーニング[複雑なレイアウトをまとめる]
 第14週 トレーニング実力テスト[経営・コンセプト・演出・造形・色彩・照明・平面図]
 第15週 まとめ

成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	担当講師が準備
参考書	担当講師が準備
備考	

科目名			担当者	
人間工学			村上 良太	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	人間とその生活環境との関係を、人間の形態学的・生理学的・心理学的・行動学的側面から考察して、人間に適した製品・生活環境を設計できる知識を身につける。
授業の概要 達成課題	人間工学の目的、歴史、意義を理解する。 人間の基本的な形状の知識と人間工学との関わりを学ぶ。 人間の行動特性を理解し、それを生活環境の計画へ応用できる力を養う。 人間工学の、各インテリアエレメントにおける役割を理解する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 人間工学についてガイダンス 必要性和空間の人体的とらえ方</p> <p>第2週 人体寸法（動的・静的人体寸法）</p> <p>第3週 ↓</p> <p>第4週 動作（作業）空間[動的人体寸法]</p> <p>第5週 動作（作業）空間[姿勢・作業] 水平・垂直・立体</p> <p>第6週 動作（作業）空間[動的人体寸法]</p> <p>第7週 ↓</p> <p>第8週 インテリア計画[動的人体寸法] 家具と機能寸法</p> <p>第9週 インテリア計画[家具] いす・机・ベッド</p> <p>第10週 インテリア計画[作業台と空間設備の寸法]</p> <p>第11週 インテリア計画[人間の知覚と造型]</p> <p>第12週 単元テスト（人間工学の概論）</p> <p>第13週 単元テスト（住居空間の設計）</p> <p>第14週 解答と対策（レポート提出）</p> <p>第15週 まとめ（概論）</p>	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック 技術編（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築構造			村上 良太	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建物の構造を理解する。 木質構造の概要を説明できる。 鉄筋コンクリート構造の概要を説明できる。 鉄骨構造の概要を説明できる。 鉄骨鉄筋コンクリート構造の概要を説明できる。
授業の概要 達成課題	まず、木質構造を学び住宅に多用されている軸組構法と枠組み壁構法について学ぶ。 次に、鉄筋コンクリート構造を学び、木質構造とは異なる重量建築物の特性を学び、木質構造との相違点について学ぶ。 更に、鉄骨構造を学び鉄筋コンクリートとは異なる、軽量で靱性に富む構造から導き出される空間性を学ぶ。 最後に、鉄骨鉄筋コンクリート構造を学び、中高層建築に多用される構造の有効性を学ぶ。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 木質構造	木質構造の特徴
第2週 木質構造	木材の規格と加工品
第3週 木質構造	軸組
第4週 木質構造	小屋組
第5週 木質構造	枠組壁構法
第6週 鉄筋コンクリート構造	鉄筋コンクリート構造の原理と特徴
第7週 鉄筋コンクリート構造	コンクリート用骨材
第8週 鉄筋コンクリート構造	配筋の基本
第9週 鉄筋コンクリート構造	基礎の形式
第10週 鉄筋コンクリート構造	柱配筋
第11週 鉄骨構造	鉄骨構造の特徴
第12週 鉄骨構造	ボルト接合
第13週 鉄骨構造	柱
第14週 鉄骨構造	階段、耐火被覆
第15週 その他の構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造
成績評価方法	期末試験にて評価し、60点以上を合格とする。 小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	「初めての建築一般構造」学芸出版社
参考書	「構造用教材」日本建築学会
備考	私語厳禁、携帯電話はマナーモードにする、教員入室前に着席、授業で使用する教科書等は授業前に準備が完了するなど、大人の常識、社会の常識で授業に臨むこと。

科目名			担当者	
建築計画 I			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	講義	30 時間	必修 2 単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ インテリア計画を進める上で考慮すべき、生活行為と動作空間を人間工学の人体寸法と結びつけて考えることができる。 ・ 単位空間と動線を考慮した間取りを計画できる。 ・ インテリアを提案していく上で必要な性能や安全性について説明できる。 ・ 各居室の計画における留意点を説明できる。
授業の概要 達成課題	<p>まず、人間工学の動作寸法及び動作空間を基本に、快適で安全な空間の計画について説明する。次に、住宅について各室の特徴を解説し、計画する上での留意点を説明する。また、近年需要の高いリフォームについて、目的と計画の進め方、法的規制等について説明する。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 ガイダンス 第 2 週 インテリア計画の進め方 第 3 週 生活空間の計画 第 4 週 寸法の計画 第 5 週 性能の計画 第 6 週 安全の計画 第 7 週 単元テスト① 第 8 週 住宅各室の計画① 第 9 週 住宅各室の計画② 第 10 週 住宅各室の計画③ 第 11 週 住宅各室の計画④ 第 12 週 リフォームの計画① 第 13 週 リフォームの計画② 第 14 週 住宅の維持管理 第 15 週 単元テスト②</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト①②の合計による評価（40%） ・ 定期試験による評価（60%）
教科書	『インテリアコーディネーターハンドブック』／インテリア産業協会
参考書	『図解インテリアコーディネーター用語辞典』／井上書院 『生活デザインとインテリア』／産業能率大学出版部 プリントを配布することもあります。
備考	講義スケジュールを確認し、講義内容の範囲は教科書を一読してから授業に臨んでください。欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。

科目名			担当者	
建築計画Ⅱ			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	平面計画に必要な要素を理解し、説明できる。平面計画の方法を理論的に学び、問題解決に生かすことができる。さらに後半ではリフォームや高齢者を対象とした住宅など、現代求められる住宅計画を考える。
授業の概要 達成課題	住宅の平面計画を中心に、各居室に分けてその機能を模型などのツールを使って検証していく。平面計画の方法について、住居学の視点から概説を行う。 授業内では、講義に加えて、講義内容に照らし合わせた演習を与える。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 LDKの空間 (1) アンケート
 第2週 LDKの空間 (2) 第1課題「LDKプラン」
 第3週 個室 (1) 第2課題「和室プラン」
 第4週 個室 (2) 第3課題「寝室プラン」
 第5週 サニタリー空間 第4課題「浴室・洗面所・便所プラン」
 第6週 通行のための空間 (1) 第5課題「階段模型の作成」
 第7週 通行のための空間 (2) 第6課題「階段模型の作成」
 第8週 住宅全体図
 第9週 リフォーム計画 (1) 第7課題「リフォーム演習」
 第10週 リフォーム計画 (2)
 第11週 リフォーム計画 (3)
 第12週 自室模様替え計画・冬 (1) 第8課題「自室模様替え計画」
 第13週 自室模様替え計画・冬 (2)
 第14週 収納 第9課題「押入れ改造プラン」
 第15週 高齢者のための空間 第10課題「バリアフリープラン」

成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 単元テスト①②の合計による評価 (40%) 定期試験による評価 (60%)
教科書	・ I Cハンドブック (インテリア産業協会)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築史 I			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講 義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋の歴史と、日本の歴史の時間的関連について理解し、説明できる。 ・日本の邸宅の様式の変遷について理解し、説明できる。 ・西洋の石造り建築の工法的な変遷について理解し、説明できる。 ・近代における構法の発展と、新しいデザインの意味を理解し、説明できる。
授業の概要 達成課題	日本の邸宅の様式の変遷について、材料と構造上の問題の解決から説明を行う。様式の移り変わりは、民俗的な文化の点かいとともにあることを理解させる。その上で、時代の要請を具体化した様式を整理し、西洋と日本を比較しながら確認させる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 ガイダンス／歴史概観（小テスト） 第 2 週 日本の古代（平安・寝殿造り） 第 3 週 日本の中世（室町・書院造り） 第 4 週 日本の近代（江戸・数奇屋造り） 第 5 週 西洋の古代（ギリシャ建築様式） 第 6 週 西洋の中世（ロマネスク建築様式） 第 7 週 西洋の中世（ビザンチン建築様式） 第 8 週 西洋の近世（ゴシック建築様式） 第 9 週 西洋の近世（ルネサンス建築様式 1） 第 10 週 西洋の近世（ルネサンス建築様式 2） 第 11 週 西洋の近世（バロック・ロココ建築様式） 第 12 週 近代建築（19 世紀、ネオクラシシズム） 第 13 週 近代建築（20 世紀、コロニアル様式） 第 14 週 近代建築（デ・スタイルとアール・デコ） 第 15 週 近代建築（有名建築家と家具デザイン）	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストによる評価（20%） ・定期試験による評価（80%）
教科書	『ICハンドブック』／インテリア産業協会
参考書	授業の中で適宜指示します。プリントを配布することもあります。
備考	必要に応じて、DVDによる資料を使用する。

科目名			担当者	
建築史Ⅱ			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講 義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋の近代史が建築のみならず、インテリアでも充実をみせた背景を理解し、説明できる。 ・西洋のおもな建築家の業績と代表作について覚え、その意義を理解できる。 ・日本の近代史における「伝統論争」の意義を考え、デザインに生かすことができる。 ・現代日本の都市計画の基本にある、建築家の業績を理解し、説明できる。
授業の概要 達成課題	西洋の建築様式と、内装デザイン、家具デザインの変遷を見せ、社会的な背景との関連を説明する。西洋の近代の建築家の主な業績を辿り、国際建築様式の成立までの構造的解決について補説する。日本の現代の都市計画の実際をしめしながら、著名な建築家の都市計画についての考え方を理解させる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 アール・ヌーボーの建築と内装 第2週 アンтониオ・ガウディ 第3週 バウハウスの作家と近代デザイン 第4週 ワルター・グロピウス 第5週 国際様式とル・コルビュジェ 第6週 アルヴァ・アアルト 第7週 ミース・ファン・デル・ローエ 第8週 ルイス・カーン／小テスト（西洋の近代史） 第9週 前川國男と美術館建築 第10週 ジョサイア・コンドルと日本の近代建築 第11週 フランク・ロイド・ライトの有機的建築 第12週 丹下健三と伝統論争 第13週 黒川紀章の都市計画 第14週 磯崎新の都市計画 第15週 安藤忠雄の都市計画／小テスト（日本の近代史）	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストによる評価（40％） ・定期試験による評価（60％）
教科書	『ICハンドブック』／インテリア産業協会
参考書	必要な補助資料としてプリントを配布することもあります。
備考	必要に応じて、DVDによる資料を使用する。

科目名			担当者	
構造力学 I			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構造物に各種の荷重が働いたときの力の流れ方について説明できる。 ・ 静定構造物（梁）について、荷重によって生じる反力を求めることができる。 ・ 静定構造物（梁）について、外力によって生じる応力を求めることができる。 ・ 静定構造物（梁）について、応力図を描くことができる。
授業の概要達成課題	<p>各種の荷重が働いたときの構造物内の力の流れ方について、構造物をモデル化して説明する。また各支持条件によって生じる反力及び応力の違いについて説明する。</p> <p>後半部では、外力によって生じる応力についての解法及び応力図の描き方を説明する。さらに複雑な荷重や構造についても解説し、まとめを行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週	ガイダンス／力学の概要説明／力の 3 要素
第 2 週	力の基礎① 構造物の種類／モーメント
第 3 週	力の基礎② 力の合成と分解／力の釣り合い
第 4 週	反力① 単純梁（1）
第 5 週	反力② 単純梁（2）
第 6 週	反力③ 片持ち梁（1）
第 7 週	反力④ 片持ち梁（2）
第 8 週	反力⑤ 単元テスト（1）
第 9 週	応力① 応力の意味
第 10 週	応力② 片持ち梁（1）
第 11 週	応力③ 片持ち梁（2）
第 12 週	応力④ 単純梁（1）
第 13 週	応力⑤ 単純梁（2）
第 14 週	応力⑥ 単元テスト（2）
第 15 週	モーメント荷重の解法、跳ね出し梁の解法
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト（1）（2）の合計による評価（40%） ・ 定期試験による評価（60%）
教科書	『図説やさしい構造力学』／学芸出版社
参考書	「構造力学演習用教材」／東北文化学園専門学校 プリントを配布することもあります。
備考	演習用教材に計算式や図を書き込みながら、目に見えない「力」の流れを理解していきます。電子計算機は使用しません。欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。

科目名			担当者	
構造力学Ⅱ			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 静定構造物（ラーメン構造）について、荷重によって生じる反力を求めることができる。 ・ 静定構造物（ラーメン構造）について、外力によって生じる応力を求めることができる。 ・ 静定構造物（ラーメン構造）について、応力図を描くことができる。 ・ 部材断面に生じる応力度等について、断面の諸係数を用いて求めることができる。
授業の概要 達成課題	<p>構造力学Ⅰに引き続き、構造物内の力の流れ方について、ラーメン構造を対象として説明する。また各応力及び応力図の求め方を説明する。</p> <p>後半部では、断面の諸係数について意味や解き方を説明する。さらに断面の諸係数を用いながら各応力度についても求め方を解説し、構造力学のまとめを行う。</p>
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週	ラーメン構造① 反力の求め方
第2週	ラーメン構造② 応力の求め方（1）
第3週	ラーメン構造③ 応力の求め方（2）
第4週	ラーメン構造④ 復習
第5週	ラーメン構造⑤ 単元テスト（1）
第6週	まとめ（1）
第7週	断面の諸係数① 断面1次モーメント
第8週	断面の諸係数② 断面2次モーメント
第9週	断面の諸係数③ 断面係数
第10週	断面の諸係数④ 応力度の意味
第11週	断面の諸係数⑤ 曲げ応力度
第12週	断面の諸係数⑥ せん断応力度、軸方向応力度
第13週	断面の諸係数⑦ 座屈
第14週	断面の諸係数⑧ 単元テスト（2）
第15週	まとめ（2）
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元テスト（1）（2）の合計による評価（40%） ・ 定期試験による評価（60%）
教科書	『図説やさしい構造力学』／学芸出版社
参考書	「構造力学演習用教材」／東北文化学園専門学校 プリントを配布することもあります。
備考	<p>演習用教材に計算式や図を書き込みながら、理解していきます。</p> <p>「断面の諸係数」の講義では電子計算機の使用可能です。</p> <p>欠席した際は、次回授業までに担当教員からプリント等を受け取り、自宅学習してください。</p>

科目名			担当者	
建築法規 I			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	インテリア内装工事に必要な関連法規について学ぶ。次に、工事関係のみならず、住宅設備や電化製品の廃棄・処理に関する関連法規についても学ばせ、エコロジーの視点など、広く社会的な法規の枠組みについて理解する。 ※一級建築士・インテリアコーディネーターとして実務経験のある教員が、課題演習を指導する。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ハートビル法について理解し、説明できる。 ・住宅の品確法について理解し、説明できる。 ・PL法、廃棄物処理法について理解し、説明できる。 ・電気工事法、消防法について理解し、説明できる。 ・建築基準法、建築士法について理解し、説明できる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 インテリア関連法規の種類、法の構成とルール</p> <p>第2週 用語の定義</p> <p>第3週 都市計画地域</p> <p>第4週 形態制限に関する法規</p> <p>第5週 環境衛生に関する規定1</p> <p>第6週 環境衛生に関する規定2</p> <p>第7週 住居の天井高、床高</p> <p>第8週 地下室に関する制限</p> <p>第9週 階段、非難施設</p> <p>第10週 防火材料、内装制限</p> <p>第11週 ハートビル法</p> <p>第12週 住宅の品確法</p> <p>第13週 消防法、電気工事士法</p> <p>第14週 廃棄物処理法、家電リサイクル法</p> <p>第15週 確認テスト</p>	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・確認テストによる評価（30%） ・定期試験による評価（70%）
教科書	『建築関係法令集（法令編）』／総合資格学院 編
参考書	『ICハンドブック』／インテリア産業協会
備考	インテリアコーディネーター資格試験の合格基準にあわせて、効果的な学習を心がけること。

科目名			担当者	
建築法規Ⅱ			佐藤 睦子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	有

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ インテリアの現場で必要とされる法規制を中心に、実務に必要な知識について理解できる。 ・ 建築関係法令集について、適確に引けることができる。 ※一級建築士・インテリアコーディネーターとして20年以上の実務経験を持つ担当教員が、課題演習授業を指導する。(一級建築士事務所にて実務)
授業の概要 達成課題	建築法規Ⅰに引き続き、インテリアの現場で必要とされる法規制を中心に、実務でインテリア計画をする際の留意事項を説明する。法令の内容を理解しやすいように、法令集の線の引き方を理解する。法規改正には迅速に対応し、実務に即した内容とする。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス、法の構成、手続き、用語の定義 第2週 環境衛生に関する規定① 第3週 環境衛生に関する規定② 第4週 シックハウス対策のための規制 第5週 防火、避難/確認テスト① 第6週 内装制限 第7週 防火材料 第8週 一般構造/確認テスト② 第9週 消防法 第10週 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律① 第11週 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律② ユニバーサルとバリアフリー 第12週 住宅の品質確保の促進等に関する法律 住宅性能表示制度/確認テスト③ 第13週 消費者関連法規 第14週 その他の関連法規 第15週 まとめ/確認テスト④	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストによる評価 (30%) ・ 定期試験による評価 (70%)
教科書	『建築関係法令集 (法令編)』/総合資格学院 編
参考書	『図解インテリアコーディネーター用語辞典』/井上書院 プリントを配布することもあります。
備考	『基本建築関係法令集』の重要な箇所に直接線を引ながら授業を進めます。赤青色鉛筆と直定規を持参してください。 欠席した際は、次回授業までに線を引いた箇所を補ってください。

科目名			担当者	
環境工学			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	環境（居住）を理解し、説明できる。環境維持の方法を理論的に学び、問題解決に生かすことができる。内装計画に必要な知識を確実に習得し、環境計画に生かすことができる。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・環境維持の方法について、環境工学の視点（温熱・湿度・空気・音響・日射）から概説を行う。 ・授業内では、講義に加えて、環境計画の演習問題を解説する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 屋外環境と室内環境 第2週 熱の性質 第3週 室内の熱環境 第4週 断熱・気密 第5週 湿度・温度（1） 第6週 湿度・温度（2） 第7週 換気・換気量 第8週 換気回数 第9週 換気方式 第10週 音の性質 第11週 騒音・室内環境 第12週 吸音・遮音 第13週 光環境・日照 第14週 採光・照明 第15週 照明機器計画	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	・ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築設備			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	建築設備の役割を理解し、説明できる。環境維持設備の方法を理論的に学び、問題解決に生かすことができる。設備計画に必要な知識を確実に習得し、室内環境整備の実践に活かすことができる。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建築設備の方法について、3つの視点（空調・給排水・電気）から概説を行う。 ・授業内では、講義に加えて、室内環境整備に必要な整備の諸計算について演習を与える。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 空調（暖房負荷・冷房負荷） 第2週 空調（方式・機器） 第3週 ↓ 第4週 換気（方式・機器） 第5週 ↓ 第6週 換気（送風） 第7週 給水（水源・水質・給水方式） 第8週 給水（給水方式・三要素） 第9週 給水（管径） 第10週 給湯（湯の性質・三要素・質） 第11週 給湯（方式・トラップ） 第12週 排水（方式・トラップ） 第13週 排水（破封） 第14週 通気（方式）、浄化槽（嫌気・好気性） 第15週 電気（交流・電力・配電）	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、予想問題テストによる評価（20%） ・小テストによる評価（20%） ・テストによる評価（60%）
教科書	・ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
CAD製図 I			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	二次元CAD (JW-CAD) の基本操作を修得し、CADで図面が描くことができる。 建築図面を作成するCADのスキルの修得と、これを理解するためのCADの理論（座標系、レイヤー、データ変換など）を学習する。
授業の概要 達成課題	二次元CAD (JW-CAD) の基本的知識、基本操作が理解できる。 参考書をもとに図面を描くことができる。（平面図、立面図） 平面図に着色し、プレゼンボードを作成することができる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 CADのしくみ 第2週 基本操作1 レッスン1 第3週 基本操作2 図面枠作成 第4週 マンション平面図1 中心線 壁 第5週 マンション平面図2 開口部 第6週 マンション平面図3 設備 仕上 文字 第7週 マンション平面図4 住戸の複写共用寸法 第8週 敷地図 配置図 中心線の挿入 第9週 立面図 立面図作成 第10週 2.5D 1 2.5D作成 第11週 2.5D 2 2.5D作成 第12週 2.5D 3 2.5D作成 第13週 プレゼンボード作成1 平面図立面図の挿入 着色 第14週 プレゼンボード作成2 平面図立面図の挿入 着色 第15週 まとめ	
成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	JW-CAD7 徹底解説操作編 エクスナレッジ
参考書	
備考	

科目名			担当者	
CAD製図Ⅱ			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	二次元CAD (JW-CAD) で、より複雑な図面が描くことができる。 3次元アプリケーション(Google SketchUp)の基本的知識、基本操作が理解できる。 CADデータや3次元アプリケーションで作成したデータをプレゼンテーションボードの作成に利用することができるようになる。
授業の概要 達成課題	2次元CAD (JW-CAD) の基本的知識、基本操作を理解できる。 3次元アプリケーション(Google SketchUp)の基本的知識、基本操作を理解できる。 CADデータや3次元アプリケーションで作成したデータを利用してプレゼンテーションボードが作成できる。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 木造住宅 平面詳細図 (1)
 第2週 木造住宅 平面詳細図 (2)
 第3週 木造住宅 平面詳細図 (3)
 第4週 木造住宅 立面図
 第5週 木造住宅 平面詳細図 (1)
 第6週 木造住宅 平面詳細図 (2)
 第7週 3次元アプリケーション (1) 3次元アプリケーションの概要
 第8週 3次元アプリケーション (2) Google SketchUp の基本操作1
 第9週 3次元アプリケーション (3) Google SketchUp の基本操作2
 第10週 3次元アプリケーション (4) Google SketchUp の基本操作3
 第11週 3次元アプリケーション (5) Google SketchUp の基本操作4
 第12週 プレゼンテーション (1) プレゼンテーションの概要・DTPアプリケーションについて
 第13週 プレゼンテーション (2) プレゼンテーションデータの作成1
 第14週 プレゼンテーション (3) プレゼンテーションデータの作成2
 第15週 プレゼンテーション (4) プレゼンテーションデータの作成3

成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)
教科書	JW-CAD7 徹底解説操作編 エクスナレッジ
参考書	
備考	

科目名			担当者	
建築材料および材料実験			今野 恵子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	必修 2単位	無

授業の目的と到達目標	内装材料・外装材料、その他各種材料の種類を理解し、説明することができる。 機能・性能について理解し、それら特性を有する材料を取り巻く環境、法則や社会的要請を具体的に説明できる。インテリアコーディネーターの実務に必要な知識を確実に習得し、インテリア設計に生かすことができる。
授業の概要達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・内装材、外装材、その他の各種の材料の性能について実物を示し、理解させる。 ・各種材料の機能・性能について、それら特性を有する材料を取り巻く環境、法則や社会的要請を具体的に例示する。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 ガイダンス</p> <p>第2週 床仕上げ材料(1) 床材の機能と性能 a、木質 b、プラスチック</p> <p>第3週 床仕上げ材料(2) 床材の機能と性能 c、たたみ d、タイル・レンガ・石材、e、カーペット</p> <p>第4週 内装仕上げ材 壁材の機能と性能 a、湿式壁材 b、乾式壁材 c、一般壁装材</p> <p>第5週 天井仕上げ材 a、木質材 b、金属材 c、無機質材</p> <p>第6週 演習(1) 事例の調査を通して仕上げ材の習得</p> <p>第7週 木材 材料の特性、内外装材としての特徴</p> <p>第8週 鋼材 建築構造材としての特性</p> <p>第9週 コンクリート 内外装材、構造材としての特性</p> <p>第10週 演習(2) 練習問題を通して仕上げ材料の習熟</p> <p>第11週 石材・ガラス 内外装材としての特性</p> <p>第12週 塗料/防炎材料/断熱材料 材料の特性</p> <p>第13週 吸音材料/防水材料 材料の特性</p> <p>第14週 接着材料/屋根材料/外装材料 材料の特性</p> <p>第15週 演習(3) 練習問題を通して仕上げ材料の習熟</p>	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価(30%) 定期試験による評価(70%)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ICハンドブック (インテリア産業協会) ・構造用教材 (日本建築学会)
参考書	
備考	

科目名			担当者	
設計製図 I			村上 良太 今野 恵子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1 年次・前期	演習	4 5 時間	必修 1. 5 単位	有

授業の目的と到達目標	RC造住宅を題材にした「基礎学習」と「製図課題」を通して住宅建築の知識と正しい製図の描き方を習得する。また、それをもとに「課題設計」に取り組む。 ※二級建築士として実務経験のある教員が、課題演習授業を指導する。
授業の概要 達成課題	木造住宅の平面図からかなばかり図まで製図しながら、作図方法や材料表示法を習得し、施工に必要な読図力を養うとともに精密な設計表現の技法を身につける。 ・図面用の線・文字がきれいに表現できる。 ・図面を模写することで読図力が身につく。 ・木造住宅の構造を作図することにより工程も理解できる。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第 1 週 製図入門 第 2 週 1 階平面図兼配置図 第 3 週 1 階平面図兼配置図 第 4 週 2 階平面図 第 5 週 A 断面図、B 断面図 第 6 週 南・東立面図 第 7 週 確認試験 第 8 週 まとめ 第 9 週 基礎伏せ図 第 10 週 2 階床伏せ図・1 階小屋伏せ図 第 11 週 2 階床伏せ図・1 階小屋伏せ図 第 12 週 軸組み図 第 13 週 かなばかり図 第 14 週 かなばかり図 第 15 週 確認試験	
成績評価方法	演習による実技評価 (30%) 作品による成果物による評価 (70%)
教科書	初めての建築製図 (学芸出版社)
参考書	授業の中で適宜プリントを配布します。
備考	

科目名			担当者	
設計製図Ⅱ			村上 良太 今野 恵子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・通年	演習	75時間	必修 2.5単位	有

授業の目的と到達目標	RC造住宅を題材にした「基礎学習」と「製図課題」を通して住宅建築の知識と正しい製図の描けるようになる。また、それをもとに「課題設計」に取り組み、作品を仕上げることができる。 ※二級建築士として実務経験のある教員が、課題演習授業を指導する。			
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・RC造住宅を題材にした「基礎学習」習得のための演習を与える。 ・「製図課題」を通して住宅建築の知識と正しい製図の描き方を習得するための演習を与える。 ・仕上げとして、各自の「課題設計」を与える。 			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	RC	配置図	第16週	木造 展開図(1)
第2週	RC	1F平面図	第17週	木造 展開図(2)
第3週	RC	2F平面図	第18週	木造 展開図(3) 課題説明
第4週	RC	南立面図	第19週	課題(2)「平屋住宅」(木造)
第5週	RC	A-A断面図	第20週	↓
第6週		[青焼き製本]	第21週	↓
第7週		課題(1)「店舗併用住宅」(RC造)	第22週	↓
第8週		↓	第23週	↓
第9週		↓	第24週	↓
第10週		↓	第25週	課題(3)「〇〇家の一日」
第11週		講評会及び提出	第26週	↓
第12週	木造	平面詳細図(1)	第27週	↓
第13週	木造	平面詳細図(2)	第28週	↓
第14週	木造	平面詳細図(3)	第29週	↓
第15週	木造	立面詳細図	第30週	講評会および提出
成績評価方法	演習による実技評価(30%) 作品による成果物による評価(70%)			
教科書	初めての建築製図(学芸出版社)			
参考書	授業の中で適宜プリントを配布します。			
備考				

科目名			担当者	
設計製図Ⅲ			中村 通	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	有

授業の目的と到達目標	<p>公共建築の計画について理解し、留意点について説明できる。公共建築の理解をもとに、建築計画を行うことができる。計画に応じた設計図を完成させることができる。最終目標として、就職試験に自信をもって使用できる作品を仕上げることができる。</p> <p>※二級建築士・商業施設デザイナーとして30年以上の実務経験を持つ担当教員が、課題演習授業を指導する。</p>
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設一般の施設計画の留意点を講義する。 公共建築一般の留意点を応用できると演習を与える。 プレゼンテーション審査会を通して、訴える力を養う。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第1週 ガイダンス : 平面計画</p> <p>第2週 展開・立面計画</p> <p>第3週 天井伏計画・照明計画</p> <p>第4週 家具計画</p> <p>第5週 まとめ</p> <p>第6週 一次審査提出 (A3サイズ6枚ケント紙含む) [平面図、展開図、立面、天井・照明・配置図、家具図、内外パース、経営指針・C I 計画]</p> <p>第7週 二次審査最終提出 (A3サイズケント紙7枚)</p> <p>第8週 平面計画</p> <p>第9週 展開・立面計画</p> <p>第10週 天伏計画・照明計画</p> <p>第11週 家具計画</p> <p>第12週 まとめ</p> <p>第13週 一次審査提出 (A3サイズ6枚ケント紙含む) [平面図、展開図、立面、天井・照明・配置図、家具図、内外パース、経営指針C I 計画]</p> <p>第14週 二次審査最終提出 (A3サイズケント紙7枚)</p> <p>第15週 まとめ [CADに引継ぎ・表現技法・プレゼン技術]</p>	
成績評価方法	<p>演習による実技評価 (30%)</p> <p>作品による成果物による評価 (70%)</p>
教科書	・講師による資料配布
参考書	
備考	

科目名			担当者	
設計製図Ⅳ			遠藤 花菜子	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・前期	演習	45時間	必修 1.5単位	無

授業の目的と到達目標	1/50 平面詳細や展開図の基本を理解し、1/100、1/200 の図面と使い分けができる。 理解した知識をもとに、平面計画から内装施工までのつながりを説明できる。
授業の概要 達成課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築施工の収まりに関する詳細な図面作成の演習を与える。 ・ インテリア計画を中心とする製図問題の解法の仕方、ポイント、図面の書き方を講義する。 ・ 制限時間を意識し、スピーディーに描けるようになることを目的とした問題を数多く与える。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス 空間とエレメント 第2週 平面図と展開図1 第3週 ↓ 第4週 平面図と展開図2 第5週 ↓ 第6週 問題の読み取り方と解法 第7週 課題1 第8週 ↓ 第9週 ↓ 第10週 課題2 第11週 ↓ 第12週 ↓ 第13週 課題3 第14週 ↓ 第15週 単元.テスト	
成績評価方法	演習による実技評価（30%） 作品による成果物による評価（70%）
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
卒業制作			増田 学身 長澤 智広 早坂 直人	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・通年	演 習	120時間	必修 4単位	無

授業の目的と到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築やインテリアについての、解決すべき問題の設定ができる。 ・建築の問題に対し、時代の要請や文化的配慮、社会的役割などを掘り下げ、建築物の提案を通じて問題解決にあたることができる。 ・インテリアエレメントの制作に関して、適切な材料を選び、ふさわしい構造法、工法を考えることができる。 ・作品についてのコンセプトをまとめ、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 			
授業の概要 達成課題	<p>まず、建築物やインテリアについての課題を設定し、各年に設定されたテーマとの整合性について考えさせる。次に、それらをどのような建築計画あるいはインテリアエレメントの実物の作品へと仕上げていくか検討させ、教員との綿密な打ち合わせを行う。制作にあたっては、材料の選定、構造法の検討、工法の決定、制作の手順、成果品の精度等について、個々の学生に合わせた指導を行う。また、卒業制作展での展示と、審査会でのプレゼンテーションを義務付け、作品の完成と発表を以って評価とする。</p>			
【各回のテーマ・内容・授業方法】				
第1週	ガイダンス/過去の作品紹介	第16週	設計作業10	
第2週	卒業制作講和	第17週	設計作業11	
第3週	コース選択に関する説明/アンケート	第18週	設計作業12	
第4週	テーマ設定	第19週	個人制作のコンセプト検討/アンケート	
第5週	設計作業1	第20週	設計作業13	
第6週	設計作業2	第21週	設計作業14	
第7週	設計作業3	第22週	設計作業15	
第8週	設計作業4	第23週	設計作業16	
第9週	設計作業5/中間の総括、発表準備	第24週	設計作業17	
第10週	中間プレゼンテーション	第25週	設計作業18	
第11週	設計作業6	第26週	設計作業19	
第12週	設計作業7	第27週	設計作業20	
第13週	設計作業8	第28週	設計作業21	
第14週	設計作業9	第29週	設計作業22	
第15週	最終プレゼンテーション	第30週	卒業制作プレゼンテーション発表会	
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション発表による評価（20%） ・作品の完成/卒業制作展への出展による評価（80%） 			
教科書				
参考書	授業の中で適宜指示します。プリントを配布することもあります。			
備考				

科目名			担当者	
企業実習			増田 学身 長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単 位	実務経験等
2年次・通年	実習	90時間	必修 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	実際に企業へ働き、実践的なスキルアップを目指すのと同時に、一社会人としての品格を磨く。社会人としてのマナーや振舞、言動を学ぶ。インテリアコーディネーターとしての専門科目を学んでいる成果を確認する。
授業の概要 達成課題	将来の就職を見据え、職業人として通用する技術と能力の研鑽のため、建築系一般企業においてインターンシップ実習を行う。実習にあたっては、実習記録の提出を義務付ける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
<p>第 1 週 実施期間については、できるだけ長期休業中に行い、他の授業に影響がないように配慮する。</p> <p>第 2 週 初回 ガイダンス 職業VRTテスト</p> <p>第 3 週 企業実習を行い、日報と確認・実習記録の作成をおこなう。</p> <p>第 4 週 実習</p> <p>第 5 週 実習</p> <p>第 6 週 実習</p> <p>第 7 週 実習</p> <p>第 8 週 実習</p> <p>第 9 週 実習</p> <p>第 10 週 実習</p> <p>第 11 週 実習</p> <p>第 12 週 実習</p> <p>第 13 週 実習</p> <p>第 14 週 実習</p> <p>第 15 週 報告発表会 振り返りと実習記録の提出</p>	
成績評価方法	実習評価表にもとづく評価 ・グループワークによる評価（20%） ・実技体験学習到達度による評価（60%） ・実習日誌による評価（20%）
教科書	
参考書	講師による資料配布
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター講座 I			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター資格試験対策の内容を網羅し、一次試験に対応できる知識を身につける。インテリア空間をまとめる具体的な業務内容の理解、様々な計画に必要な基礎知識、構造・構法と仕上げに関する知識、技術について理解を深める。
授業の概要達成課題	テキストの理解や過去問題を解くことで、インテリアコーディネーター資格試験の内容である、ファブリック、家具、仕上材、建具、証明、住宅設備などの知識を身につける。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス 分野別傾向
 第2週 人間工学
 第3週 建築計画
 第4週 建築史
 第5週 造形と色彩
 第6週 環境工学
 第7週 ↓
 第8週 建築材料
 第9週 ↓
 第10週 構法
 第11週 ↓
 第12週 建築設備
 第13週 表現技法
 第14週 建築法規
 第15週 過去問題と解説

成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター講座Ⅱ			三浦 由貴	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター資格試験対策の内容を網羅し、一次試験に対応できる知識を身につける。インテリア空間をまとめる具体的な業務内容の理解、様々な計画に必要な基礎知識、構造・構法と仕上げに関する知識、技術について理解を深める。
授業の概要達成課題	テキストの理解や過去問題を解くことで、インテリアコーディネーター資格試験の内容である、ファブリック、家具、仕上材、建具、証明、住宅設備などの知識を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 インテリアコーディネーターと販売 第2週 ファブリック 第3週 ↓ 第4週 インテリア・エクステリアの小物 第5週 家具 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 仕上げ材 第9週 ↓ 第10週 建具 第11週 ↓ 第12週 照明 第13週 ↓ 第14週 住宅設備 第15週 住まいの提言	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター講座Ⅲ			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単 位	実務経験等
2年次・前期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター資格試験対策の内容を網羅し、一次試験に対応できる知識を身につける。インテリア空間をまとめる具体的な業務内容の理解、様々な計画に必要な基礎知識、構造・構法と仕上げに関する知識、技術について理解を深める。
授業の概要達成課題	テキストの理解や過去問題を解くことで、インテリアコーディネーター資格試験の内容である、ファブリック、家具、仕上材、建具、証明、住宅設備などの知識を身につける。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 インテリアコーディネーターと販売 第2週 ファブリック 第3週 ↓ 第4週 インテリア・エクステリアの小物 第5週 家具 第6週 ↓ 第7週 ↓ 第8週 仕上げ材 第9週 ↓ 第10週 建具 第11週 ↓ 第12週 照明 第13週 ↓ 第14週 住宅設備 第15週 住まいの提言	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
インテリアコーディネーター講座Ⅳ			増田 学身	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単 位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアコーディネーター資格試験対策の内容を網羅し、二次試験に対応できる技術・知識を身につける。二次試験の論文とプレゼンテーションの対策授業とし、各種図面の作図方法を理解し、多くの表現力を身につける。
授業の概要 達成課題	インテリアコーディネーター資格試験対策（二次試験対策）
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 論文・プレゼンテーション対策 第2週 問題1「畳コーナーのあるLDKのインテリアコーディネート」 第3週 問題2「若いイラストレーターのためのインテリアコーディネート」 第4週 問題3「戸建住宅における夫婦の空間のインテリアコーディネート」 第5週 問題4「子供の成長に配慮したマンションのインテリア計画」 第6週 問題5「ワンルームマンションのインテリアコーディネート」 第7週 問題6「マンションモデルルームのインテリア計画」 第8週 問題7「坪庭のある和室をもつマンションのインテリアコーディネート」 第9週 問題8「メゾネット型のテラスハウスのインテリアコーディネート」 第10週 問題9「仕事場を兼ねた山荘のインテリアコーディネート」 第11週 問題10「町屋をギャラリー付き住宅に改装するインテリアコーディネート」 第12週 プレゼンテーション① 第13週 プレゼンテーション② 第14週 プレゼンテーション③ 第15週 まとめ	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	ICハンドブック（インテリア産業協会）
参考書	
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座 I			佐々木 美穂	非常勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
1年次・前期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的と到達目標	インテリアをはじめとする住生活商品を扱う業界において、多様化するお客様のニーズに対応するためには、幅広い知識とそれを支える接客スキルが重要となる。店頭で商品の魅力を説明するだけでなく、お客様のライフスタイルを把握し、最も適切な提案を行う能力を身につける。
授業の概要 達成課題	住生活商品の接客販売はもとより、住宅やリフォームに関わるインテリアやエクステリアのプランニング、販売業務に伴う事務処理、商品計画としても商品管理やアフターサービスなどに携わる。

【各回のテーマ・内容・授業方法】

- 第1週 ガイダンス リビングスタイリストに必要な知識
- 第2週 流通のしくみ 小売業の役割
- 第3週 情報の種類 収集
- 第4週 マーケティング 市場調査
- 第5週 店舗演出の基本
- 第6週 接客販売
- 第7週 ビジネスマナー
- 第8週 住生活産業に関わる法規
- 第9週 家具の分類
- 第10週 窓装飾 カーテン シェード
- 第11週 窓装飾 スクリーン ブラインド
- 第12週 照明
- 第13週 設備
- 第14週 住生活アクセサリ
- 第15週 まとめ

成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	
参考書	
備考	

科目名			担当者	
資格対策講座Ⅱ			増田 学身 長澤 智広	常 勤
配当年次	授業形式	授業時間	単位	実務経験等
2年次・後期	講義	30時間	選択 2単位	無

授業の目的 と 到達目標	インテリアコーディネーター、リビングスタイリスト、福祉住環境コーディネーター、色彩検定など上位級資格に対応した内容とする。各個人の希望級に沿った内容で学習する。各種検定の合格を目標として取り組む。
授業の概要 達成課題	各種検定の合格を目標として取り組む。
【各回のテーマ・内容・授業方法】	
第1週 ガイダンス 第2週 過去問題解説① 第3週 過去問題解説② 第4週 過去問題解説③ 第5週 実践問題① 第6週 実践問題①解説 第7週 実践問題② 第8週 実践問題②解説 第9週 実践問題③ 第10週 実践問題③解説 第11週 模擬問題① 第12週 模擬問題② 第13週 模擬問題③ 第14週 模擬問題④ 第15週 まとめ	
成績評価方法	小テスト及びレポート等による評価（30%） 定期試験による評価（70%）
教科書	
参考書	
備考	

